

平成 22 年度第 8 回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	平成 22 年 8 月 30 日 16 時～16 時 35 分
開催場所	小山田記念温泉病院第 3 会議室
出席委員	毛 受、鈴 村、北 村、山 中、田 中、牧 野、家 崎、大 西 (敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	若山 浩子
研究名	重心動揺計を用いた動的バランス訓練の介入効果と生活範囲との関係性
研究内容 要旨	通常のリハビリに加え、重心動揺計を用いて動的バランス訓練を施行し、動的バランス訓練の介入効果と退院 3 ヶ月後の生活範囲との関連性を比較・検討する。
審議結果	差し戻し
意見	重心動揺計を用いた動的バランス訓練を行う群（介入群）と行わない群（対照群）の分け方を説明書に記載する。 介入群、対照群それぞれの訓練内容、期待される利益、および起こりうる危険、必然的に伴う不快な状態などを説明書に記載する。 どちらかの群が明らかに有利になる（起こりうる危険や必然的に伴う不快な状態などに比して、期待される利益が大きい）ことがないように配慮する。
新規研究計画の審議	
申請者	生駒 直美
研究名	回復期病棟における認知症患者に対する読み書き計算の効果
研究内容 要旨	音読と計算を中心とする教材を用いた学習を、学習者とスタッフがコミュニケーションをとりながら行うことにより、学習者の認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善が報告されている。読み書き計算を当院にて実施し、学習者の認知機能などに働きかけることで機能の維持・改善の効果を調査する。
審議結果	差し戻し
意見	読み書き計算の教材を用いた学習を行う群（介入群）と行わない群（対照群）に分ける方法を説明書に記載する。 介入群、対照群それぞれの訓練内容、期待される利益、および起こりうる危険、必然的に伴う不快な状態などを説明書に記載する。 どちらかの群が明らかに有利になる（起こりうる危険や必然的に伴う不快な状態などに比して、期待される利益が大きい）ことがないように配慮する。 認知症と診断されていない患者（自覚していない患者）への説明方法について再検討する。